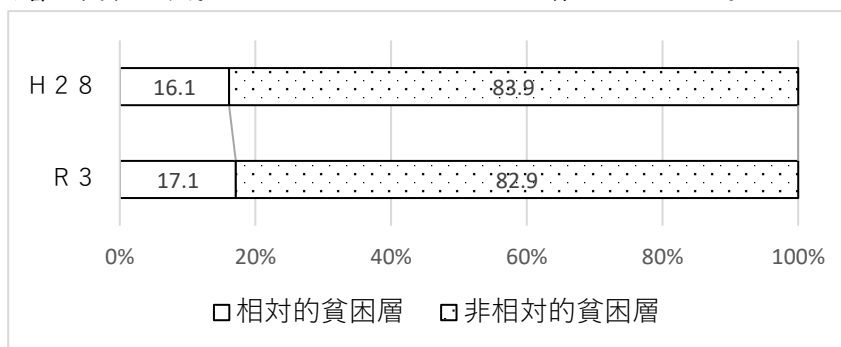


1 回収状況

		配布数	有効回答数	有効回答率
H28	子ども	2,004通	1,003通	50.0%
	保護者	2,004通	1,025通	51.1%
R3	子ども	2,000通	998通	49.9%
	保護者	2,000通	1,028通	51.4%

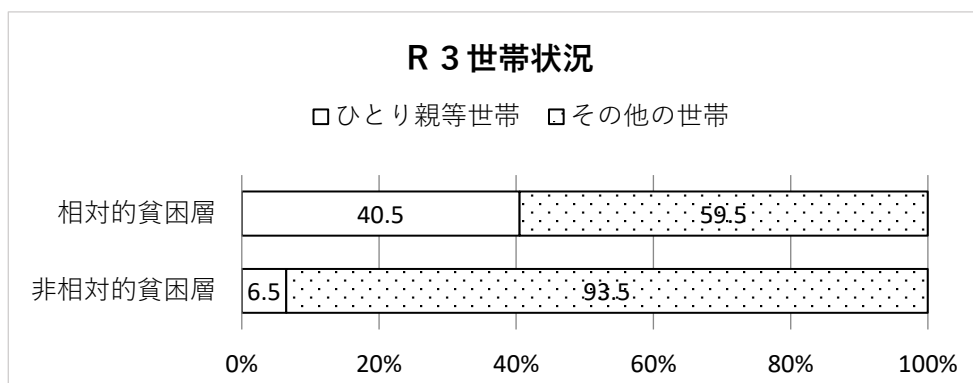
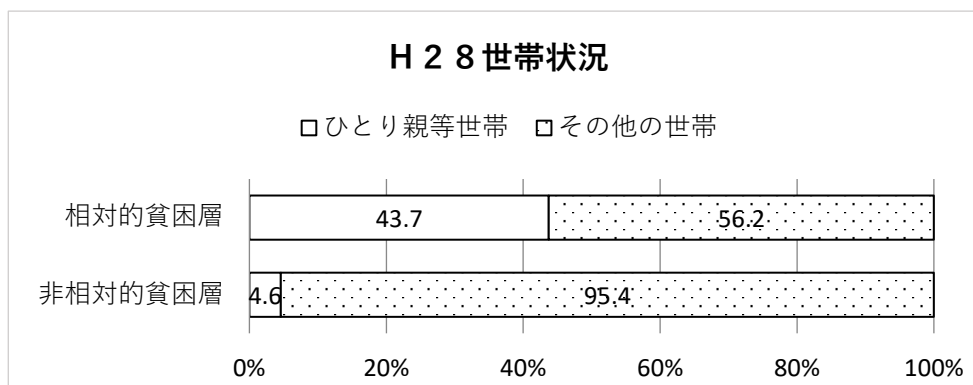
2 相対的貧困層の割合の推移

相対的貧困層の割合は、前回の16.1%から17.1%と増加しています。



3 世帯状況

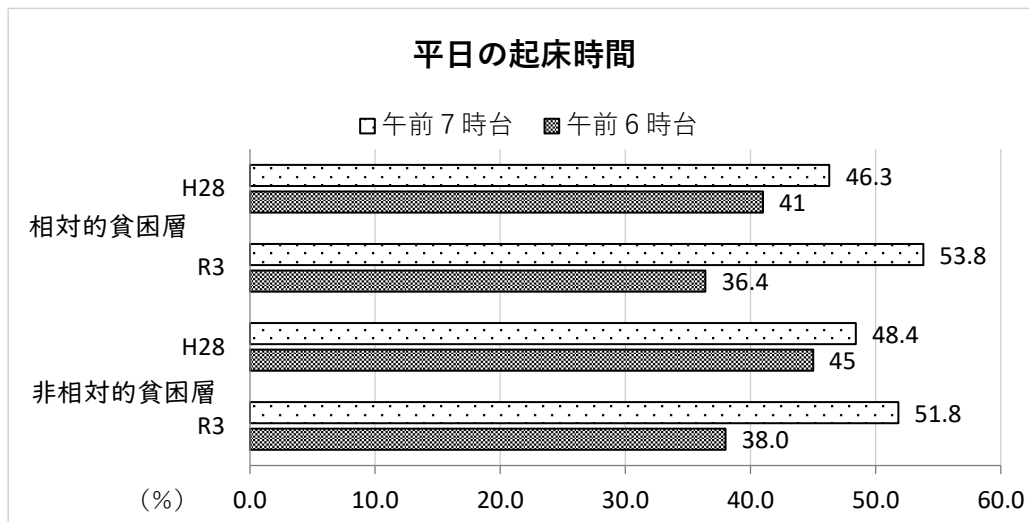
H28に比べて、R3相対的貧困層でのひとり親等世帯の割合が減少しています。また、非相対的貧困層では、ひとり親等世帯の割合が増加しています。



#### 4 相対的貧困層と「平日の起床時間」との関係の比較

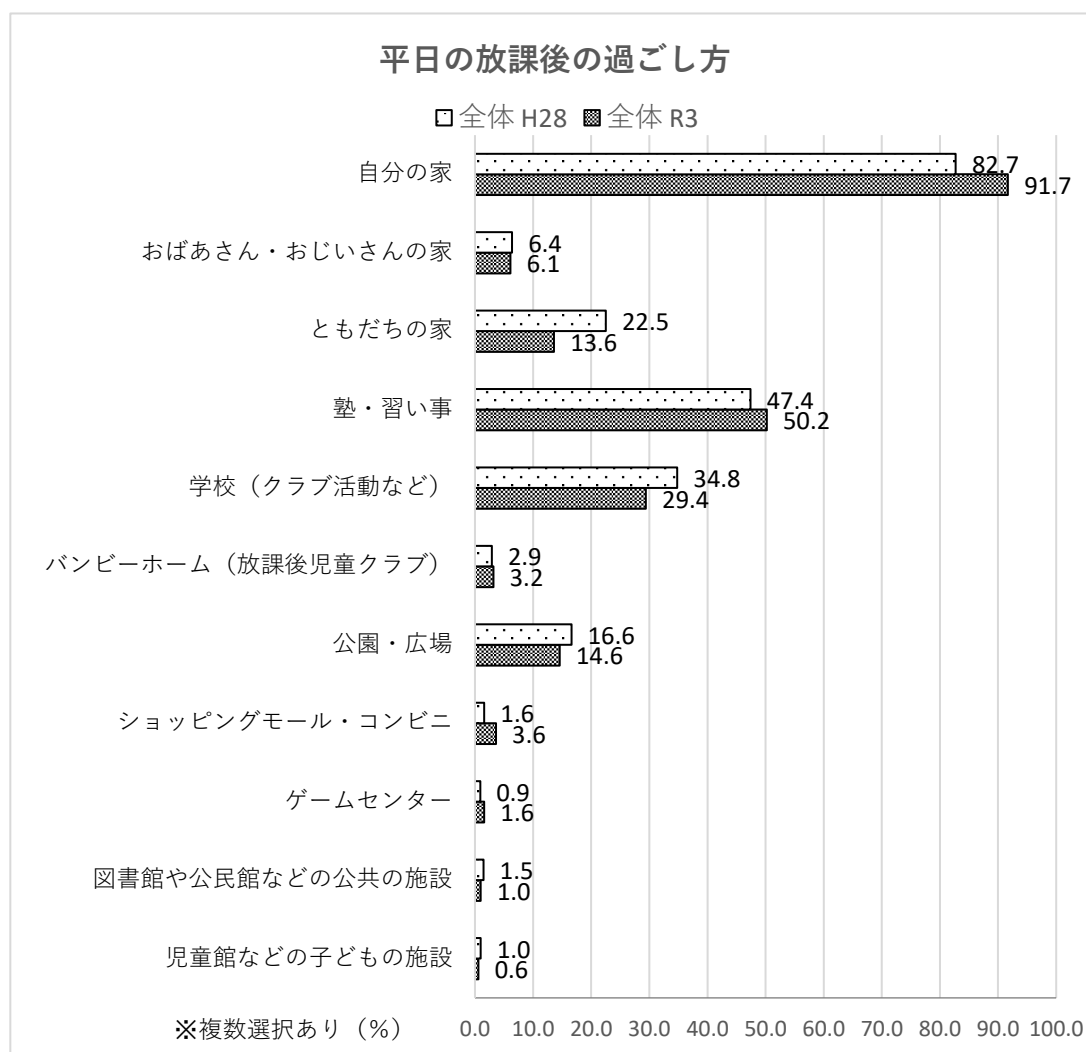
「午前7時台」と「午前6時台」の割合の差について、H28は小さかったですが、R3には差が大きくなっています。

特に相対的貧困層の変化が顕著となっています。



#### 5 「子どもの平日の放課後の過ごし方」の比較

H28に比べて、R3は「自分の家」で過ごすことが増加しています。一方で「ともだちの家」で過ごすことや、「クラブ活動など学校」で過ごすことは減少しています。



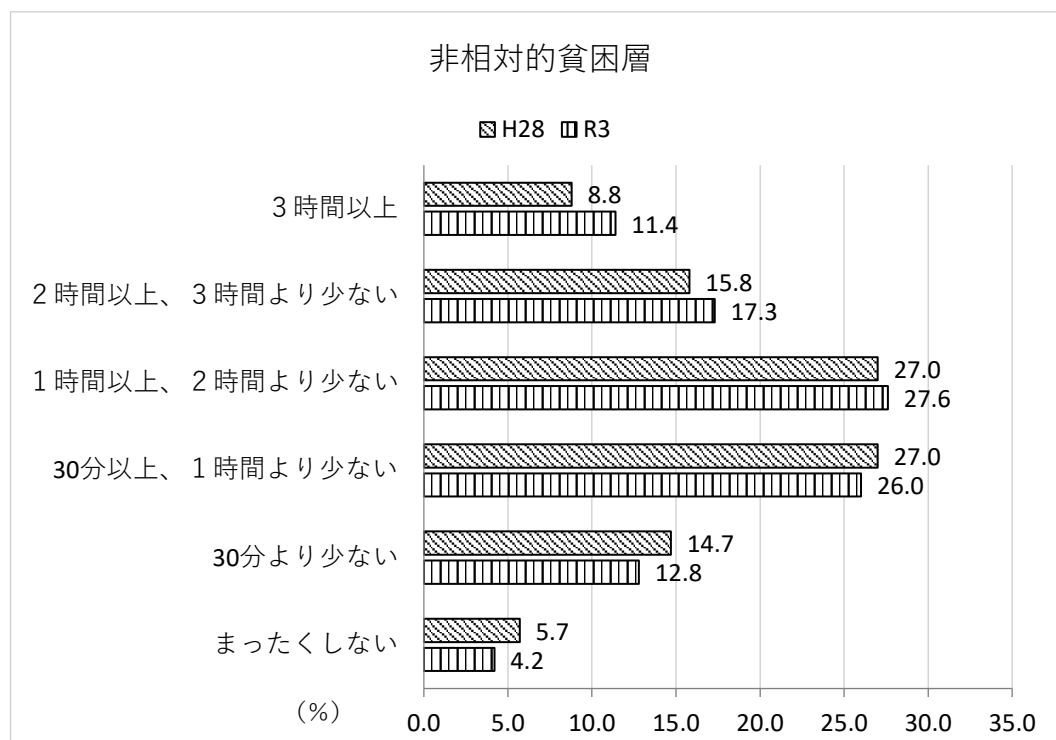
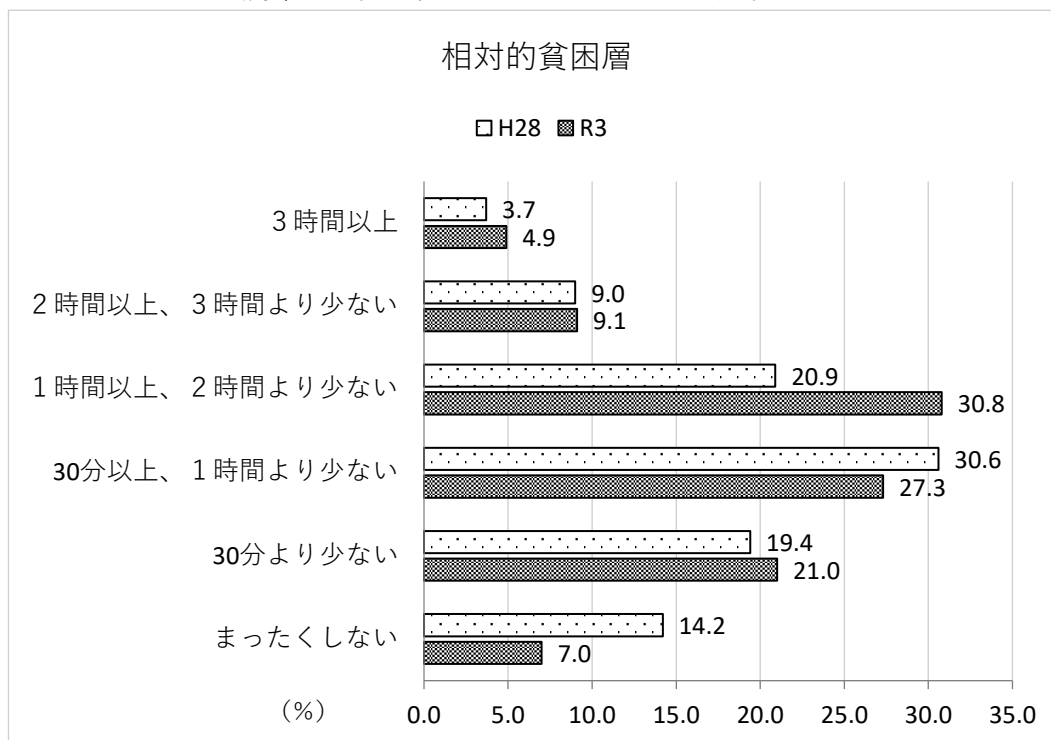
## 6 相対的貧困層と「授業時間以外の1日あたりの勉強時間」との関係の比較

相対的貧困層で、勉強時間が短い傾向にあります。

H28に比べて、R3は「まったくしない」の割合が減少しました。また、「1時間以上2時間未満」の割合が増加しました。

相対的貧困層で顕著に見られますが、リモート授業やタブレット活用により、家庭での学習環境が整えられたことが影響しているのではないかと考えます。

### 授業時間以外の1日あたりの勉強時間

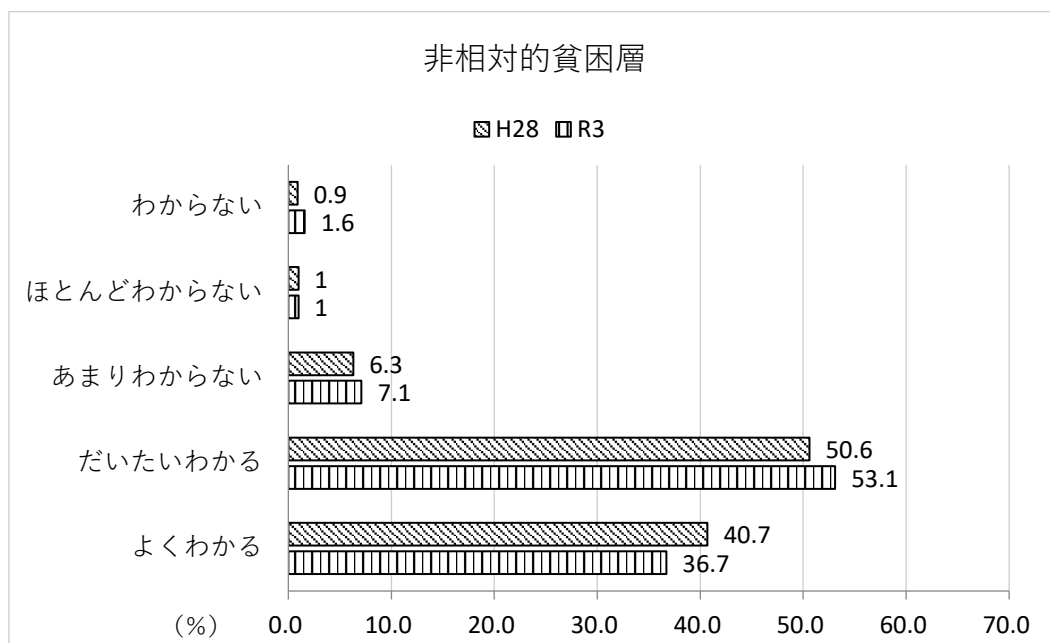
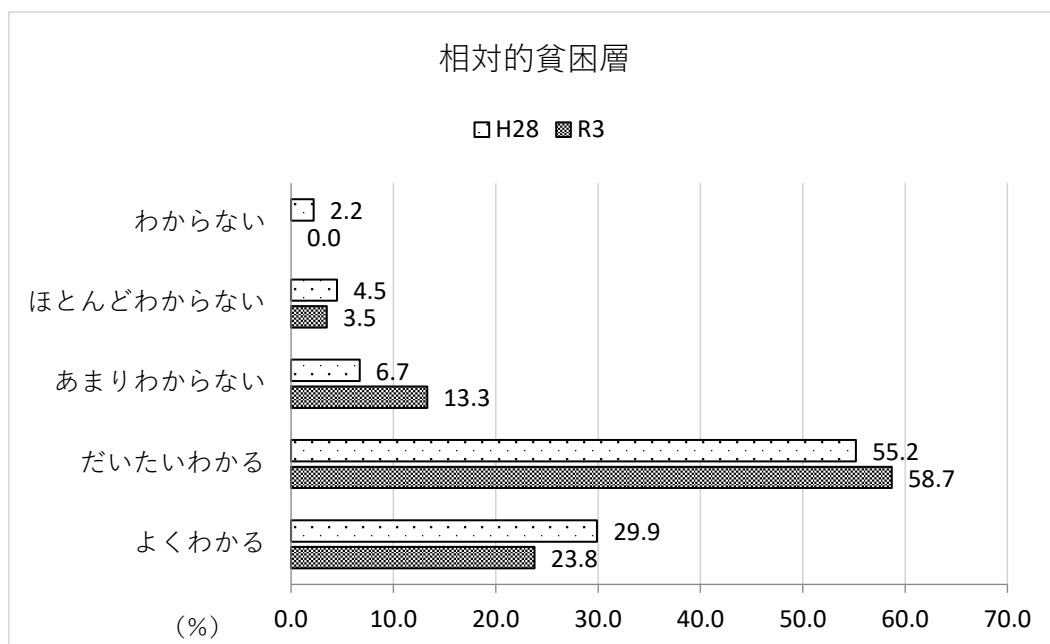


## 7 相対的貧困層と「学校の授業の理解度」との関係の比較

「よくわかる」と「だいたいわかる」をあわせた「わかる」の割合は相対的貧困層で低くなっています。

H28に比べて、R3は「よくわかる」の割合が減少しています。また、「あまりわからない」の割合が増加しています。この変化は相対的貧困層で顕著に見られます。

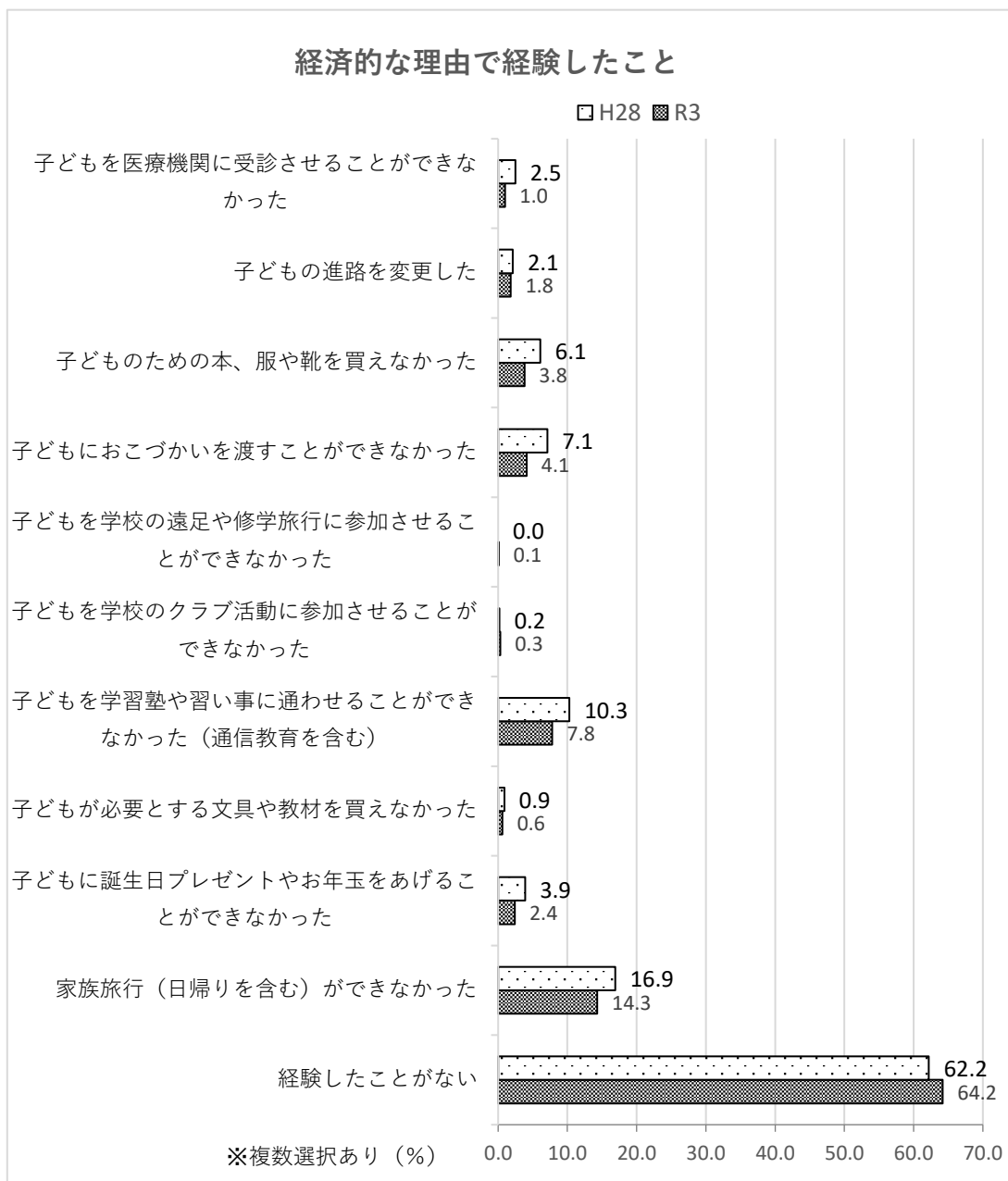
### 学校の授業の理解度について



## 8 保護者の経済的な理由で経験したことについての比較

「経験したことがない」の割合が最も高く、次いで「家族旅行（日帰りを含む）ができなかった」「子どもを学習塾や習い事に通わせることができなかった（通信教育を含む）」の割合が高くなっています。

H28に比べてR3は、経済的な理由で、機会を喪失した割合は、現状維持或いは微減しています。



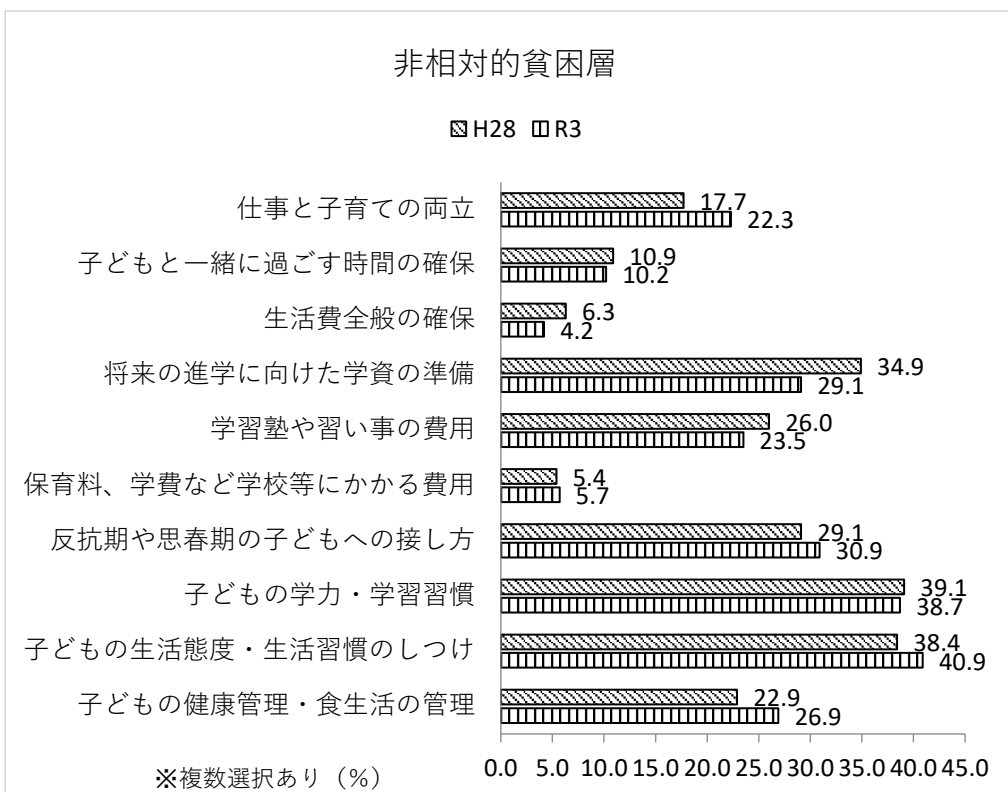
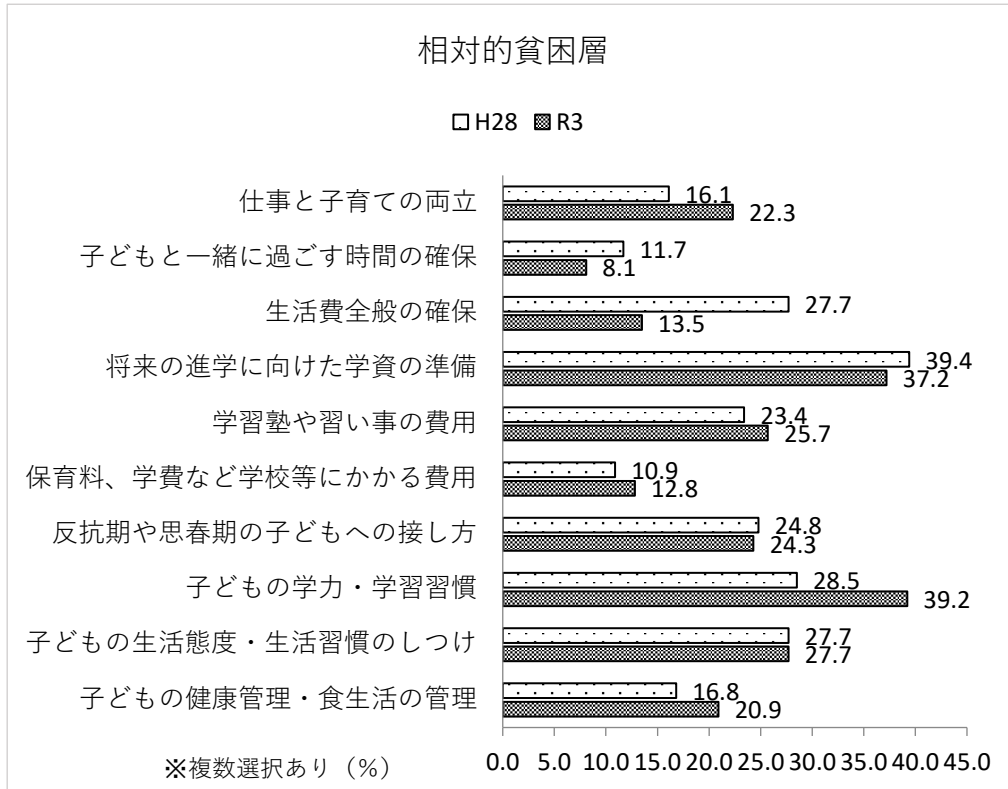
## 9 相対的貧困層と「子育てについて特に大変だと感じること」との関係の比較

「保育料、学費など学校等にかかる費用」「将来の進学に向けた学資の準備」「生活費全般の確保」の割合は相対的貧困層で高くなっています。

H28に比べてR3は、「子どもの学力・学習習慣」及び「仕事と子育ての両立」についての割合が増加しています。また、「生活費全般の確保」についての割合が減少しています。

この変化は相対的貧困層で顕著に見られます。

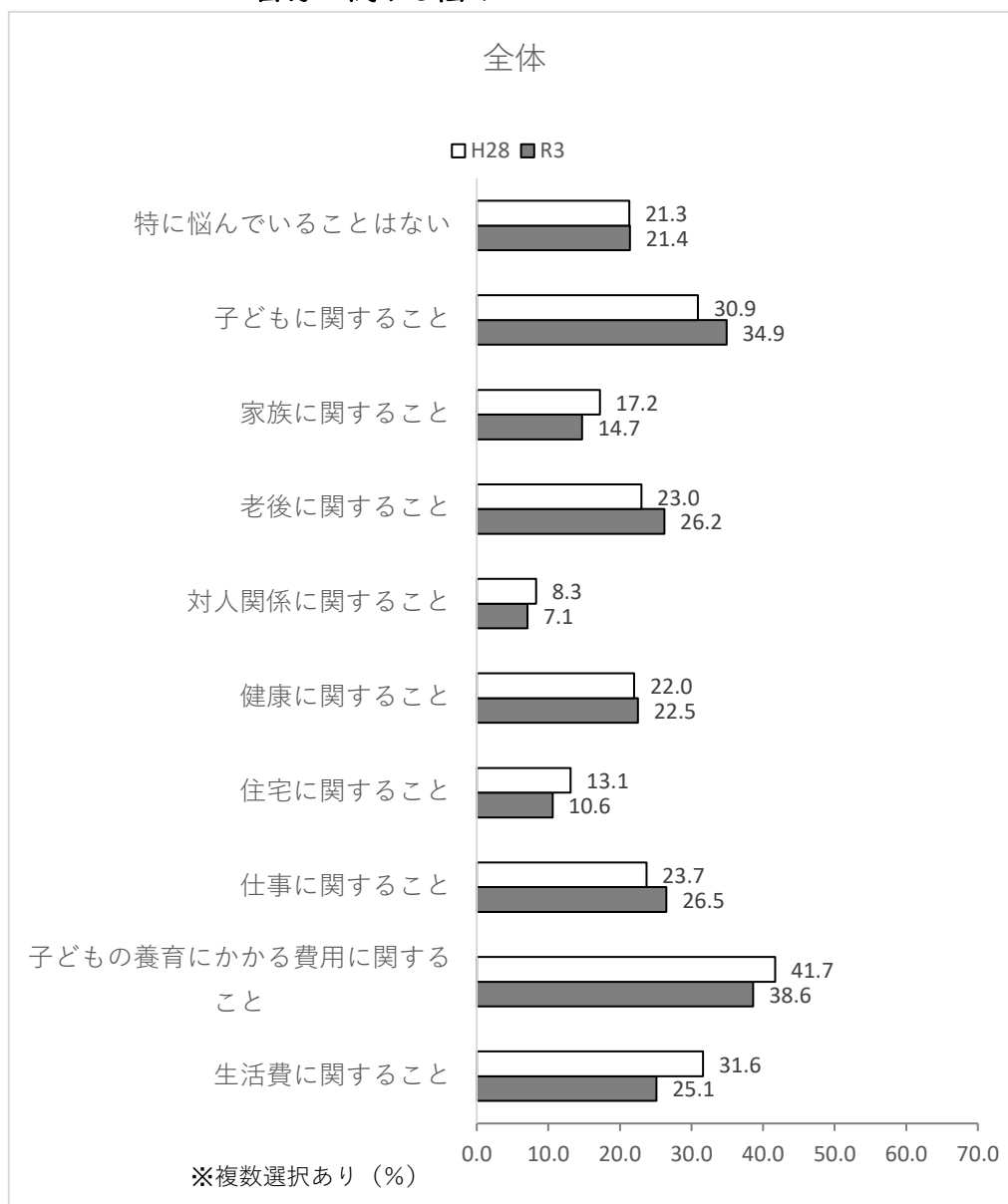
### 子育てについて特に大変だと感じること



## 10 家族類型別「保護者の自分に関する悩みごと」の関係の比較

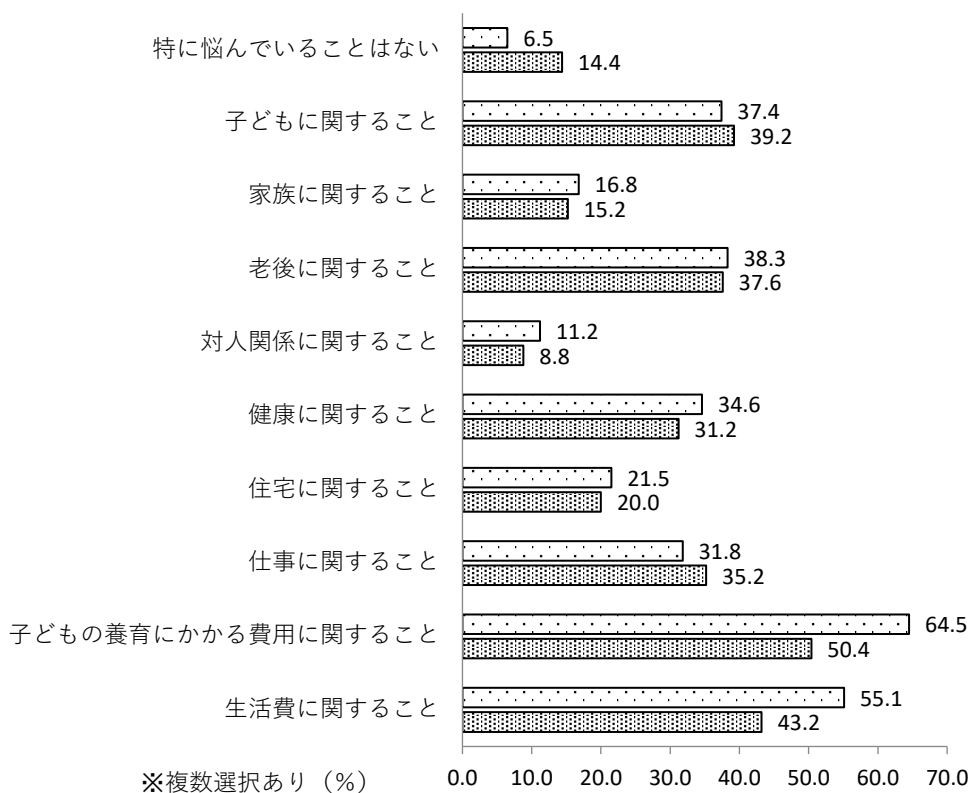
H28に比べてR3は、「生活費に関すること」及び「子どもの養育にかかる費用に関すること」の経済的な項目をあわせての割合は、全体的に減少していますが、母子・父子等世帯でのR3の同項目についての割合は依然として高い状況です。

### 自分に関する悩みごとについて



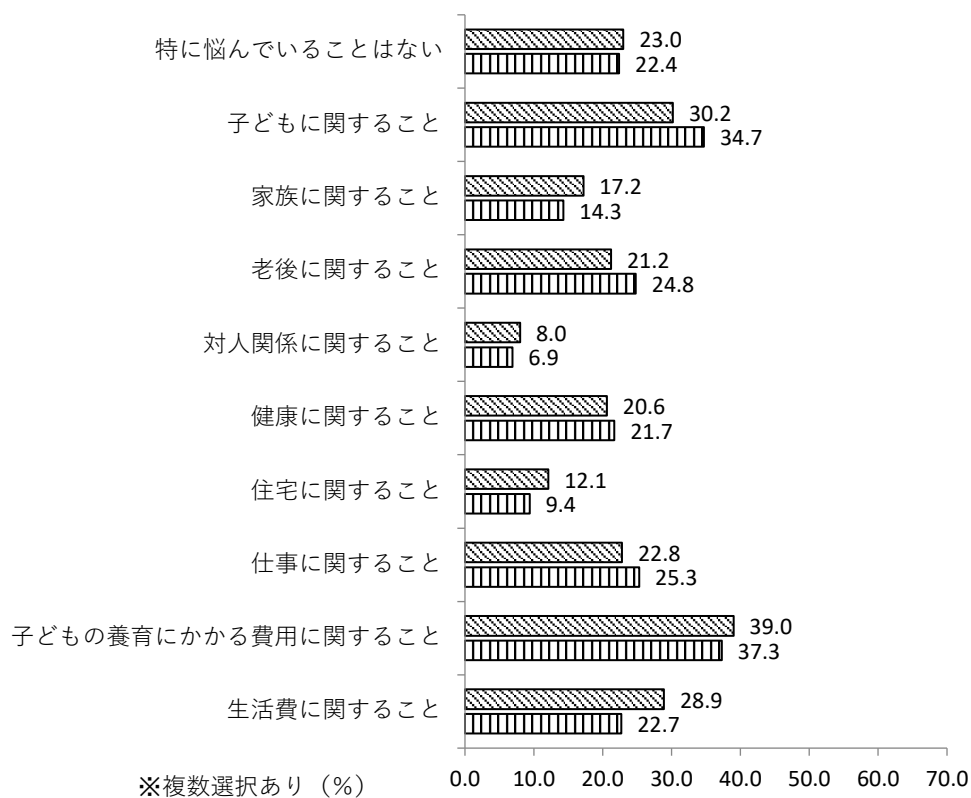
### 母子・父子等世帯

□ H28 ■ R3



### その他の世帯

▨ H28 ▤ R3





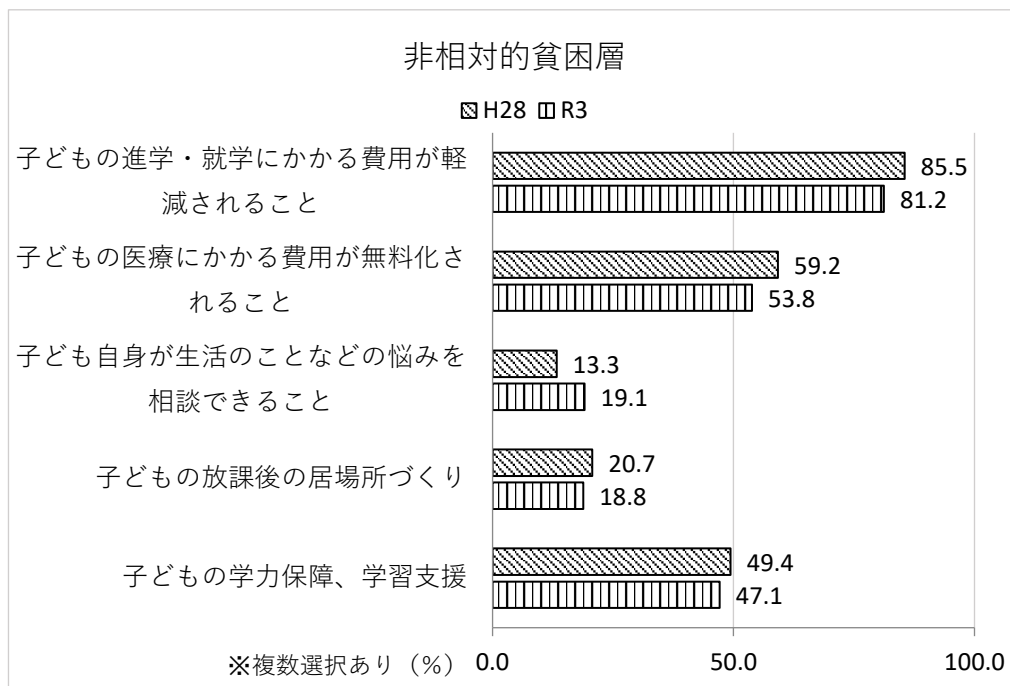
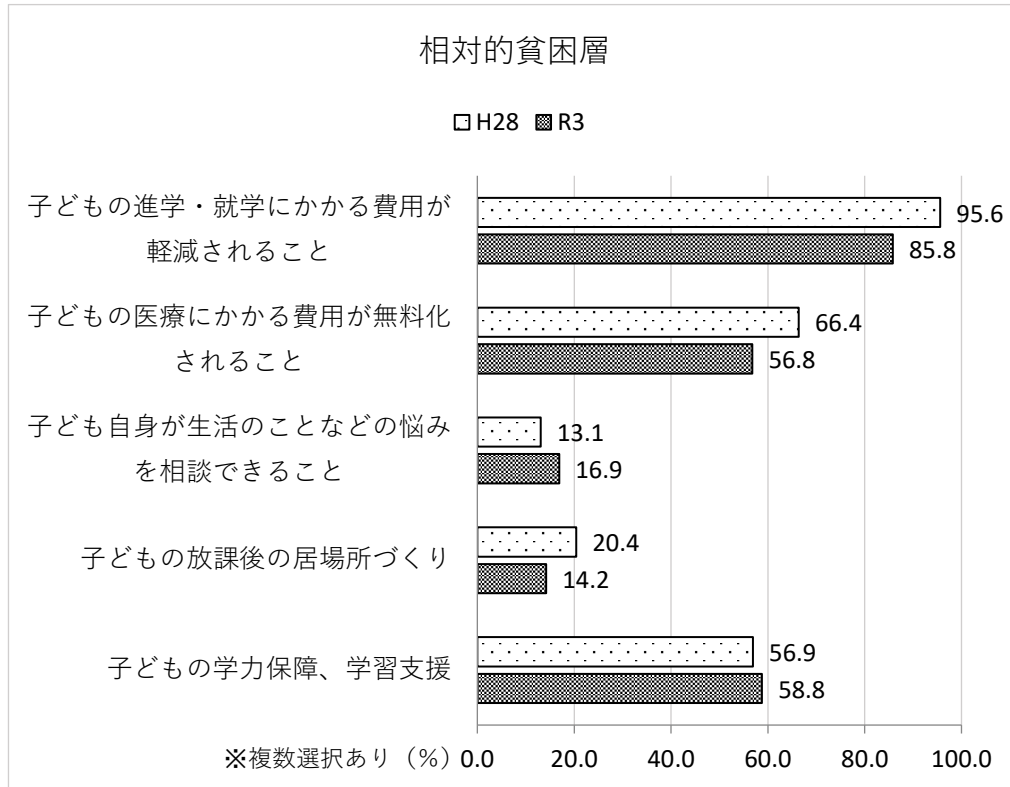
## II 相対的貧困層と「子どもに対して必要と思われる支援」との関係の比較

全体としては、「子どもの進学・就学にかかる費用が軽減されること」の割合が82.7%と最も高く、次いで「子どもの医療にかかる費用が無料化されること」の割合が55.8%「子どもの学力保証、学習支援」の割合が49.7%となっています。

H28に比べてR3は、「子ども自身の悩みを相談できること」の割合が増加しています。また、「放課後の居場所づくり」、「医療費の無料化」「学費の軽減」については減少しています。

コロナ禍での生活の変化による医療機関の受診機会の減少などが要因の一つではないかと考えます。

### 子どもに対して必要と思われる支援について



## 12 相対的貧困層と「奈良市の支援制度を受けるうえで、困ったこと」との関係の比較

H28に比べてR3は、相対的貧困層で、「制度についてよく知らない」、「制度の申請先がわかりにくい」が、微増していると同時に、「特にない」が増加しています。

支援制度について、自分事として捉えられていないのか、また、生活に追われ時間がないのかなど、いろいろな要素が考えられます。

### 奈良市の支援制度を受けるうえで、困ったことについて

